

祈りとエネルギーが 光に乗って届くとき

世界の祈りから読み解く、
遠隔ヒーリングの謎



ヒーリングスクールコスモブライト 上野正春・上野夕子

著作権について

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意下さい。

このレポートの著作権は「コスモブライト上野正春、上野夕子」に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。

著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、変更、不正確な情報等がありましても、このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者やコスモブライトは、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポート内容を実行する際は、自己の責任のもとで行われますようお願いいたします。

このレポート上にある URL はクリックできます。

できない場合は最新の Adobe Reader をダウンロードしてください。（無料）

<https://get.adobe.com/jp/reader/>

目次

はじめに 遠くにいる誰かを想う夜.....	3
第1章 日本——姿が見えなくても、無事を願う	4
第2章 インド・チベット——唱えられた祈りは風に乗る	5
第3章 ヨーロッパ——名も知らない誰かのための祈り	6
第4章 ハワイと先住文化——癒しとは、つながりを取り戻すこと	8
第5章 日本から世界へ広がったレイキ	9
第6章 チャクラとオーラ——目に見えないエネルギーの地図	10
第7章 あなたの心が休息を求めている 10 のサイン	11
1. 休んでいるのに、休んだ気がしない	11
2. 「大丈夫」が口癖になっている	11
3. 人と会ったあと、ひどく疲れる	12
4. 小さなことで心が揺れる	12
5. 静かな時間を避けてしまう	12
6. 自分が何を望んでいるのか分からない	12
7. 眠る直前まで考え続けている	13
8. 人に頼ることへの罪悪感がある	13
9. 以前好きだったものに心が動かない	13
10. 理由は説明できないけど「少し立ち止まりたい」と感じる	13
第8章 人はなぜ、遠くの誰かを癒したいと願うのか	15
最終章 目を閉じた 60 分間に起きること	16
光を受け取った方々の物語.....	18
前向きな気持ちを取り戻し、新しい一歩へ.....	18
押し込めていた感情が開放され、間食や体に悪い食事が減った	19
深く眠れて疲れがとれ、プラス思考になる.....	19
大金が入りタイミングよく引越できた	19
安心感に包まれる時間.....	20
レイキパワーが向上し、潜在能力（直感力）が開発された	20
思わぬ臨時収入で嬉しい悲鳴	20
回復が早く、風邪も早く治り、体が変わった。	20
心臓や胃腸の調子が良くなった.....	21
レイキパワーが強くなり、色々な助けを感じる	21
あまり疲れなくなっていて体力がついた	21
おわりに 今度はあなたが目を閉じる番	22
遠隔ヒーリング体験のご案内	23
大切なお知らせ	24
■上野正春プロフィール■.....	25

はじめに 遠くにいる誰かを想う夜

このPDFを手にとってくださり、心よりありがとうございます。

ところであなたは、ふと遠くにいる大切な人を思い出すことがあるでしょうか。

「離れて暮らす家族。」

「しばらく会っていない友人。」

「困難の中にいると聞いた人。」

「今、どこで、どのような気持ちで過ごしているのだろう。」



そう考えたとき、私たちは自然に、その人の無事や幸せを願います。

すぐに会いに行けなくても、代わりに苦しみを引き受けられなくても、せめて穏やかでいてほしいと無意識に祈ってしまいます。

その行為は、特別な宗教を持つ人だけのものではありません。

世界を見渡すと、人々はさまざまな方法で、目の前にいない誰かへ祈りを届けてきました。

「寺社や教会で手を合わせたり、名も知らない人のために祈る。」

「火に願いを託したり、風に祈りを運んでもらう。」

「家族や祖先、自然との調和を取り戻そうとする。」

「どうか、あの人が守られますように。」

「どうか、苦しみが少しでも和らぎますように。」

形や背景は違っていても、そこには共通する願いがあるのです。

この本は、遠くの誰かを想う世界の文化をめぐりながら、最後にあなた自身の心へ戻ってくる、小さな旅をお届けします。

どうぞ最後まで、ゆっくりお読みください。

第1章 日本——姿が見えなくても、無事を願う

「旅立つ人へ、お守りを渡す。」

「家族や大切な人の健康を願って、寺社を訪れる。」

「遠方にいる人の名前を胸に置き、静かに手を合わせる。」

日本では昔から、姿が見えない相手を想う祈りが、暮らしの中にありました。

神社で受けるお守りは、持つ人のそばに祈りを置くものともいえます。

大切な人へお守りを渡すとき、私たちは単に小さな袋を手渡しているわけではありません。



「どうか無事でいてください」

「困難から守られますように」

そんな、言葉にならない願いも一緒に託しています。

寺院では、護摩の火に願いを託したり、読経や回向によって、功德を自分以外の存在へ向けたりする考え方が受け継がれてきました。

神社と寺院では、信仰の背景も祈りの意味も異なります。

それでも、距離があるから何もできないと諦めるのではなく、祈りという形で相手へ心向けるところには、人間らしい共通性があります。

祈る側にできることは、限られています。相手の悩みを、代わりに解決することはできませんし、病気や困難を引き受けることもできません。

それでも、手を合わせる時間には、相手の存在を忘れていないという意志があります。

日本に受け継がれてきた祈りの中には、「姿が見えなくても、心に向けることはできる」という感覚が息づいています。

第2章 インド・チベット——唱えられた祈りは風に乗る

インドでは、古くからマントラと呼ばれる、聖なる音や言葉が唱えられてきました。

声に出された響きは、祈る人の呼吸と意識を整え、神聖なものへ心に向ける時間をつくれます。

同じ言葉を繰り返し唱えているうちに、散らばっていた意識が、少しずつ静まっていく。



言葉の意味を頭で理解するだけでなく、音と呼吸を通して祈りの中へ入っていく。

そこには、考えることとは異なる、静かな心の働きがあります。

チベット文化圏の風景には、経文や祈りが記された祈祷旗が見られます。

青、白、赤、緑、黄色の旗が空の下で風に揺れる姿は、祈りが一人の内側に留まらず、世界へ広がっていくイメージを呼び起こします。

また、経文を収めたマニ車を回す行為にも、祈りの言葉を繰り返し、その功德を広く届けようとする願いが込められています。

その文化固有の宗教的背景と、長い歴史がありますので、尊重するためにも、現代の遠隔ヒーリングと同じ仕組みとして扱うことは難しいかもしれません。

祈りを自分だけのために閉じないで、見知らぬ人や、生きとし生けるものへ広げようとする世界観は、「願いは、どこまで届くのか。」

そして、「誰かを想う心に、距離はあるのか。」という大切な問いを投げかけることでしょう。

第3章 ヨーロッパ——名も知らない誰かのための祈り

キリスト教には、自分のためでなく、他者のために神へ祈る「執り成し（とりなし）の祈り」というものがあります。

「病気や困難の中にいる人。」

「災害や争いに巻き込まれた人。」

「希望を失いそうになっている人。」



あるいは、名前も顔も知らない誰かのために、教会や家庭で祈りが捧げられます。

祈る人と祈られる人が、実際に会ったことがない場合もあります。

互いの顔を知らず、どこで暮らしているのかさえ知らないこともあります。

それでも、「どうか守られますように」「希望を失いませんように」と祈ります。

そこにあるのは、苦しんでいる人を一人にしないという姿勢です。

直接その問題を解決できなくても、その人の苦しみが少しでも和らぐようお願い、希望を失わないよう祈ることで、その人を心の中に迎えることはできます。

祈りが人の身体へどのように働くのかについては、今の科学ではまだはっきりした答えをだせていません。

「祈れば必ず病気がよくなる」「祈れば望んだ結果が起きる」と断言することもできません。

それでも、いくつかの研究は、興味深い結果が報告されています。

例えば、アメリカのある総合病院では、約400名の心臓病の患者さんを対象に、遠くから祈りを送ることが病状に与える影響を調べる実験が行われました。

暗示効果がでないよう、患者さん本人にも、治療にあたる医師や看護師にも知らせずに行われたこの実験では、祈ってもらったグループは、祈ってもらわなかったグループに比べて、「抗生物質が必要となった人の数が5分の1以下」になり、「肺気腫になった人が3分の1」になったそうです。

また、のどに人工気道を確保する「気管内挿管」が必要な人は、祈ってもらったグループにはいなかったのに、祈ってもらわなかったグループでは、12人も患者がでたと言います。

また、オックスフォード大学で行われた実験では、遠くからヒーリングを受ける人の体にさまざまな測定機器を取り付けたところ、離れた部屋にいても、その人の体につけていた測定機が反応したことが確認されています。

ただし、「祈りの効果が科学的に証明された」とは言っても、100%の効果を保証しているわけではありません。

誰かが自分のために祈ってくれていると知ることが、孤独の感じ方や希望に影響し、「私は一人ではない」と感じられることが、張りつめていた心を、少しでもゆるめてくれる一因としてあるようです。

第4章 ハワイと先住文化——癒しとは、つながりを取り戻すこと

世界の先住文化には、心と身体だけを切り離して考えず、家族、祖先、土地、自然、共同体との関係を含めて、人の健やかさを捉える考え方があります。

ただし、それぞれの文化は、固有の歴史と伝統を持っていますので、すべてを一つの考え方としてまとめることはできません。



大切なのは、それぞれの文化の違いを尊重しながら、「人は周囲との関係の中で生きている」という視点に触れることです。

ハワイに伝わる「ホ・オポノポノ」は、本来、家族や近しい集団の間に生じたもつれを話し合い、謝罪や許しを通して、関係の調和を取り戻していく文化的実践です。

現在では、短い言葉を繰り返す自己啓発法として紹介されることもあります。

しかし、それだけで本来の「ホ・オポノポノ」の全体像を表すことはできません。

そこには、「人と人との関係を見つめること。」

「語られていなかった気持ちに耳を傾けること。」

「必要な謝罪をすること。」「互いを許し、関係を結び直すこと。」

そして、「共同体の中に調和を取り戻すこと」が含まれています。

ここでいう癒しは、つらい感覚を消すことだけではありません。壊れかけた関係を見つめ、真実を語り、再びつながり直すことも、癒しに含まれます。

自分だけで完結しているように見える悩みも、実は、人や環境との関係の中で生まれていることがあります。

癒しとは、過去の状態へ戻るのではなく、新しい調和のあり方を見つけることなのかもしれません。

「ホ・オポノポノ」については、無料PDF「願いを叶えるシークレット」にくわしく書いていますので、よかったら以下からご登録してお読みください。

<https://dreamcomecosmo.com/>

第5章 日本から世界へ広がったレイキ

レイキは、20世紀初頭の日本で、臼井甕男（うすいみ かお）によって体系化された手当て療法・健康法として知られています。

その後、海外へ伝わる過程で、多様な系統や教え方が生まれ、現在では、

「Reiki」という言葉が世界のさまざまな地域で知られています。



レイキには、身体へ直接手を当てる方法だけでなく、離れた場所にいる人へレイキエネルギーを送る遠隔ヒーリング法もありますが、その考え方や説明、具体的な方法は、流派や実践者によって異なります。

遠隔ヒーリングは、エネルギーが届くと説明する人もいれば、祈りや意図を向ける時間として捉える人もいます。

日本では、病気を診断したり、治療したりする医療行為としては使えませんが、国によっては医療の補助として認めているところもあります。

ですが、静かに横になり、自分の感覚へ注意を戻し、誰かから丁寧に想われる時間に、安らぎや意味を感じる人がいます。

日々の生活では、私たちは「何かをしなければならない」という気持ちに追われがちです。

「仕事をする。」「家族を支える。」

「家事をする。」「育児をする。」

「問題を解決する。」「周囲の期待に応える。」

そうして忙しく過ごしているうちに、「自分が何を感じているのか」、「何を欲しているのか」さえ、分からなくなることがあります。

そんなときには、自分のために用意された静かな時間が与えられる遠隔ヒーリングを受けてみるのを一つの選択肢に加えてみてはいかがでしょうか。

第6章 チャクラとオーラ——目に見えないエネルギーの地図

古代インドで育まれたヨガ哲学の中に、チャクラという考え方があります。

梵語(サンスクリット語)で「車輪」を意味するこの言葉は、体の内側を巡る、目には見えない生命エネルギーの中樞を指しています。

背骨に沿って並ぶ、いくつもの小さな車輪それぞれが回転し、振動しながら、心と体のあいだをつなぐエネルギーの流れをつくっていると考えられてきました。



疲れやストレスが重なると、この車輪の回転は次第に弱まっていきます。

すると、体を包む光の層「オーラと呼ばれるもの」も、その力を落としていきます。

オーラが弱くなると、外からの負の影響を受けやすくなったり、心と体の均衡が崩れやすくなったりすると、古くから語られてきました。

反対に、チャクラが整い、オーラが満ちているとき、人は本来の健やかさへと近づいていきます。これもまた、目には見えないけれど、確かにそこにあると信じられてきたエネルギーのひとつです。

遠隔ヒーリングは、この目に見えないつながりに、そっと働きかけ、癒しを届けます。

チャクラを整え、オーラを浄化していくことは、遠く離れた場所からであっても、相手の心と体に触れようとする、ひとつの方法なのです。

科学では、まだ十分に説明のつかない領域ですが、風に乗って運ばれる祈りと同じように、目に見えないものが、確かに何かを動かすことがある。

そう確信していた人々が、世界のあちこちにいたことを、私たちはこれまでの章で見ました。

チャクラとオーラもまた、そうした「目に見えないけれど、大切にされてきたもの」のひとつなのです。

第7章 あなたの心が休息を求めている 10のサイン

心の疲れは、いつも分かりやすい形で現れるとは限りません。

「倒れてしまうほど疲れているわけではない。」

「毎日の仕事や家事も、どうにか続けられている。」

「人と話すときには、笑うこともできる。」



それでも、心の奥から、このような小さな声が聞こえてくることはないでしょうか。

「ちょっと休みたい」

「もう頑張れないかもしれない」

「本当の気持ちに気づいてほしい」

ここからは今の自分へ、静かに目を向けるきっかけとして読んでみてください。

1. 休んでいるのに、休んだ気がしない

「ソファに座っても、頭の中では明日の予定や、誰かとの会話が続けている。」

「横になっても、しなければならないことが次々と浮かんでくる。」

身体は止まっても、心はずっと働き続けているのです。

休むためには、身体を止めるだけでなく、考え続けている心にも、休んでよいと伝える時間が必要なのかもしれません。

2. 「大丈夫」が口癖になっている

「心配されると、考える前に「大丈夫」と答えてしまう。」

「本当は苦しくても、相手に心配をかけないように笑ってしまう。」

そうしているうちに本当の状態を、自分自身にも見せないようにしているのかもしれない。

「大丈夫ではない」と認めることは、弱さではありません。

自分を守るために必要な、正直さであることもあります。

3. 人と会ったあと、ひどく疲れる

「楽しい時間だったはずなのに、一人になった途端に動けなくなる。」

「誰かと話している間、相手の表情や言葉を気にし続けてしまう。」

相手に嫌われないように、場の空気を乱さないように、自分でも気づかないところで力を使っている可能性があります。

一人になったときに押し寄せる疲れは、それまで張りつめていた心が、ようやく力を抜いた証拠かもしれません。

4. 小さなことで心が揺れる

普段なら気にならない言葉や出来事に、涙が出たり、強く苛立ったりする。

そんな自分を見て、「どうしてこんなことで」と責めてしまうこともあります。

けれど、それは弱さではありません。

小さな出来事が原因なのではなく、それまでに積み重なった疲れによって、心の余白が少なくなっている可能性があります。

5. 静かな時間を避けてしまう

「テレビや音楽をつけたままにする。」

「意味もなく、スマートフォンやパソコンを眺め続ける。」

「眠る直前まで、何かの情報に触れている。」

静かになると、押し込めていた感情が浮かんできそうで、怖いと感じているのかもしれない。

静けさを避けている自分に気づいたときは、無理にすべての感情と向き合う必要はありません。

ほんの数分、自分の呼吸を感じるところから始めてもよいのです。

6. 自分が何を望んでいるのか分からない

「あなたはどうしたいの？」と聞かれても、なかなか答えが出てこない。

何を食べたいのか、どこへ行きたいのか、どう暮らしたいのかも分からない。

周囲を優先し続けていると、自分の声が聞こえにくくなる場合があります。

答えがすぐに出なくても大丈夫です。

分からないと気づくことも、自分の心へ戻るための大切な一歩です。

7. 眠る直前まで考え続けている

身体は疲れているのに、頭の中では反省や心配が止まらないことはないですか。

「あのとき、こう言えばよかった」

「明日、うまくできなかつたらどうしよう」

と眠る時間になっても、心が問題を解決しようと働き続けてしまっています。

今すぐ答えを出さなくてもよいことまで、一晩中抱え続けているのかもしれない。

8. 人に頼ることへの罪悪感がある

「自分で解決しなければならない。」

「迷惑をかけてはいけない。」

「自分より大変な人がいるのだから、弱音を吐いてはいけない。」

そう考えて、何もかも一人で抱えてしまうことはないでしょうか。

けれど、助けを受け取ることも、本来は人間の自然な営みです。

誰かに支えてもらうことは、自分の力を失うことではないのです。

9. 以前好きだったものに心が動かない

音楽、映画、旅行、食事、季節の変化、趣味、友人との会話。

以前なら楽しめたものを、何も感じず、自分の心が変わってしまったように感じる場合があります。

けれど、心が悪くなったわけではありません。

今のあなたは、何かを楽しんだり、味わったりするための力が残っていない可能性があります。

10. 理由は説明できないけど「少し立ち止まりたい」と感じる

「大きな問題があるわけではない。」

「生活も、それなりに続いている。」

それでも、内側から「少し立ち止まりたい」という静かな声が聞こえることはありませんか。

それは、自分に意識を戻す時期を知らせる声かもしれません。

理由をうまく説明できなくても、その感覚を無視する必要はありません。

いくつ当てはまったかを、数える必要ありません。

たった一つでも心に残る言葉があったなら、今のあなたには、少し立ち止まる時間が必要なのかもしれません。

休息とは、何もしないことだけではありません。

誰かに心を預けること。

自分のために用意された静けさを受け取ること。

いつも外側へ向けている意識を、自分の内側へ戻すこと。

世界には古くから、苦しんでいる人、疲れている人、遠く離れた人へ、祈りや癒しを届けようとする営みがありました。

あなたもまた、誰かを想い、支えてきたのではないのでしょうか。

今度はあなたが、癒しを受け取る番なのかもしれません。

第8章 人はなぜ、遠くの誰かを癒したいと願うのか

世界をめぐって見えてきたのは、方法の一致ではありませんでした。

祈りの言葉も、信じる存在も、儀礼の意味も異なります。

けれど、人は遠くにいる誰かの苦しみを知ると、「何かできることはないだろうか」と考えます。



何もできないと感じる状況でも、「相手とのつながりを失いたくない。」

「一人ではないと伝えたい。」

「穏やかな時間が訪れるよう願いたい。」

そのような思いから生まれるのではないのでしょうか。

癒しとは、病気や症状がなくなることだけを意味するものではありません。

「不安の中で、孤独ではないと感じること。」

「張りつめていた心が、少しゆるむこと。」

「自分の本当の気持ちに気づくこと。」

「誰かの支えを受け取ってもよいと思えること。」

「自分を責める言葉が、一つ減ること。」

「明日を迎える力が、ほんの少し戻ってくること。」

そうした小さな変化の一つひとつが、少しずつ心を癒していくのかもしれません。

祈りやヒーリングで、すべての問題を解決することはできません。

それでも、誰かの存在を想い、その人のために静かな時間をつくることはできます。

遠くの誰かを癒したいという思いには、「離れているからこそ、大切な人とのつながりを感じ、その人の幸せを願う」という、人が人を大切にしようとする、素朴で深い、シンプルな願いが込められています。

最終章 目を閉じた 60 分間に起きること

(この物語は、遠隔ヒーリングを経験された方の実体験をもとに再構成しました。)
その夜、彼女は時計を何度も見ていました。

遠隔ヒーリングが始まるのは、午後 10 時。

部屋の照明を少し落とし、枕元に水を置きます。

申し込んだときから、半分は楽しみで、半分は疑っていました。



「離れた場所から、本当に何か分かるのだろうか」

開始時刻になり、ベッドへ横になります。

目を閉じて、最初は今日の仕事や明日の予定が、次々と頭に浮かびました。

「職場で交わした会話。」「返していない連絡。」

「明日までに終わらせなければならないこと。」

時計の音や、外を走る車の音も気になります。

何も感じない。やはり、自分には分からないのかもしれない。

そう思ったころ、握っていた手がゆるんでいることに気づきました。

肩が布団の上へ沈み、呼吸が少し深くなっています。

手のひらが、温かいようにも感じますが、毛布のせいかもしれません。

「これはヒーリングなのだろうか」

「自分でそう思い込んでいるだけなのではないか」

答えを探そうとすると、また頭の中が忙しくなりました。

けれど、そのうち彼女は、理由を考えるのをやめました。

何かを感じなければならないわけではない。

正しく受け取らなければならないわけでもない。

そう思ったとき、急に涙が一粒こぼれました。

悲しいわけではありません。何かを思い出したわけでもありません。

ただ、誰にも見せないようにしていた疲れを、ようやく自分が見つけたような気がしました。

「私、本当はずっと疲れていたんだ」

その言葉が心に浮かぶと、もう一粒、涙が流れました。

頑張ることが当たり前になっていました。

人に心配をかけないように、いつも「大丈夫」と答えていました。

つらいと思う前に、次にしなければならないことを考えていました。

誰かに助けてほしいと思うことさえ、忘れていたのかもしれませんが。

その夜、彼女が受け取ったのは、劇的な光景でも、不思議な声でもありませんでした。

ただ、自分の身体が少しずつゆるんでいく感覚。

誰かが自分のために、静かな時間をつくってくれているという安心。

そして、自分の本当の疲れに気づくための、小さな余白でした。

やがて、意識は眠りの中へ沈んでいきました。

翌朝、人生が別のものに変わっていたわけではありません。

問題も予定も、そのままです。

仕事へ行けば、昨日と同じ作業が待っています。

解決しなければならないことも残っています。

けれど、カーテンを開けたとき、朝の光が少しきれいに見えました。

いつもなら急いでスマートフォンを手にとるところを、彼女はしばらく窓の前に立っていました。

そして、ゆっくり息を吸いました。

昨夜よりも、少しだけ深く呼吸ができるような気がしました。

大きな奇跡ではなく、自分の呼吸へ戻るための小さな余白。

それが彼女の受け取った、最初の変化でした。

光を受け取った方々の物語

遠隔ヒーリングの感じ方や、その後に気づくことは、人によって異なります。

セッション中に温かさや眠気を感じる方もいれば、特別な感覚を覚えない方もいます。

変化にすぐ気づく方もいれば、何日か経ってから、日常の中の小さな違いに気づく方もいます。



ここでは、実際に遠隔ヒーリングを受けた方々から寄せられた、個人的な体験をご紹介します。

体験談は、すべての方に同じ変化が起きることを示すものではありませんので、一人ひとりの物語として、お読みください。

前向きな気持ちを取り戻し、新しい一歩へ

高山みえ様

仕事が進まず、燃え尽き症候群かうつのようで、とにかく眠くて、やる気のない日々が半年ぐらい続き、生きにくさを感じていました。

しかし遠隔ヒーリングを受け始めて約1か月が過ぎたころ、朝6時にはパッと気持ちよく起きられるようになりました。

以前は、何かと落ち込んだり、自分が悪いと責めたり、考え込んだりしていました。

けれど、「何を、どのように進めればよいのか」を整理して考えられるようになり、気持ちも前向きに、自分軸で、自信をもって進む事ができるようになりました。

新しい出逢いや挑戦、引っ越しなど、変化がめまぐるしく起こり、大きく成長できる機会がどんどん舞い込み、自分が成長できている実感があります。

これから望む生活や未来をイメージしながら、ワクワク過ごしています。

とても不思議です。ありがとうございます。

押し込めていた感情が開放され、間食や体に悪い食事が減った

大谷加代様

私は長年健康上の悩みを抱えてました。

以前は食欲がなく、一度の食事量も少なかったのですが、以前ほど間食をせず、ジャンクフードを欲しいと思うこともなくなりました。

私は病気もあり、肉体的精神的に長年辛かったのですが、我慢強く平然と振舞っていました。

それが、遠隔ヒーリングを受けるようになってから、「本当はとても辛かった」「今自分は悲しい」などと、自分の気持ちに気づきました。

一人の時、ふと涙が出たり、大声で泣いたり、無自覚に押し殺したり、無視していた自分の気持ちが解放され始めたようで、感情を解放できるようになりました。

深く眠れて疲れがとれ、プラス思考になる

比佐浩様

かつて上野正春先生のアチューンメントを受けてから、友人から指摘されるほど掌が熱くなり、パワーを実感したので、先生のヒーリングパワーは疑いようがないと確信してました。

遠隔ヒーリングでは、睡眠が深くなり疲れが取れるという肉体的な事もありましたが、メンタル面への効果も大きかったです。

仕事やプライベートでの不安が、上手くいくと言うプラスな考えになっていることに気付かされる時が多かったです。

心身を整えるということで体と心、双方が良くなる相乗効果というものもあるのでしよう。これは素晴らしい1番の収穫でした。

大金が入りタイミングよく引越できた

40代・女性

Bコースの「願いを叶える光の白魔術」を二人でお願いしてから、二人共、運の流れが大きく動き始めました。

なんと、店が入っているビルが取り壊しになり、ビルを出ていかなければならなくなりました。他の店は怒っているのに、私たちはワクワクしています。

「立ち退き→大金もらう→好きな場所に移動」という図式が脳内に一瞬で出来上がり、親が高齢になり遠方なので、そろそろ親孝行しなければ、と考えていたので、ち

ちょうど良いタイミングです。

遠隔ヒーリングのおかげで 本当にいろいろと助かっています。

安心感に包まれる時間

60代・男性

初めて遠隔ヒーリングを受けた翌朝、いつもとは違う身体の安定感を覚えました。

ヒーリングの時間になると、自然と安心感が生まれます。

静かに守られているような感覚があり、精神面が癒されている感じがします。

レイキパワーが向上し、潜在能力（直感力）が開発された

30代 女性 R.Nさん

体に違和感がある所へしばらくレイキしたら、自動調整ができるようになり、レイキを習った時よりもレイキパワーが上がった気がしました。

私は、開業医に勤めていて、潜在能力が開花したようなこともときどき起きます。

束のカルテの中から、出したい患者さんのカルテがぱっと開けたところにあったり、その前後にあったり、とにかく結構な確率で開けた近くに目当ての物があるのです。

思わぬ臨時収入で嬉しい悲鳴

30代 女性

遠隔ヒーリングの当日、22時位から眠くてウトウトし、気づいたら22時40分位だったのですが、何かに包まれているような感じがしました。

それは、ただ明るい感じではなく、暗がりの中にいてふわっとした何かが包んでくれているような感覚でした。

それから、好転反応なのか、少しトイレが近くなった気がします。

また、お正月から思わぬ仕事で臨時収入が入り、嬉しい悲鳴をあげてますが、もしかしたら、遠隔ヒーリングのお陰で引き寄せられたのかもしれない。

回復が早く、風邪も早く治り、体が変わった。

50代 女性

遠隔ヒーリングを4ヶ月受けています。

今までは買い物や庭の手入れで、数日間は筋肉や関節が痛みましたが、最近ふと気が付くと、それがかなり軽く済むようになっています。

階段も手すりにつかまって上り下りしていたのが、最近、手すりにあまりつかまっても自分に気が付き、驚いています。

そして、よく風邪をひいていたのですが、あまりひかなくなり、たまに風邪をひいても軽く済んで、早く治ってしまうので助かっています。

何十年も風邪と仲良しだったのに、嘘みたいです。

体が変わったのを感じます。

心臓や胃腸の調子が良くなった

50代 夫婦

ほぼ毎晩、睡眠中に不整脈の発作があり、起きては薬を飲んでいたのですが、それが遠隔ヒーリング中の21日間は無かったです。

また、いつも胃腸の具合が悪く、ほぼ毎日、胃腸薬を飲んでいましたが、ほとんど薬を飲まなくなりました。

また、一緒に遠隔ヒーリングを受けている妻も、ときどき胃腸薬を飲んでいたのですが、薬を飲む回数が10分の一くらいに減ったので喜んでいます。

レイキパワーが強くなり、色々な助けを感じる

40代 女性

Bの遠隔ヒーリングをお願いして5ヶ月ですが、レイキパワーが強くなりました。

私はレイキティーチャーなのですが、生徒にアチューンメントをする際に、びっくりするほど手が反応し、そういえば今年に入ってからだな、と気がつきました。

色々な意味で、この遠隔ヒーリングに本当に助けていただいているのがわかります。ありがとうございます！

あまり疲れなくなっていて体力がついた

60代 夫婦

夫とホームセンターに行くと4～5時間歩いてしまうのですが、そのあと二人とも足や腰や股関節が痛くなったり、疲れてしまいます。

ですが、遠隔ヒーリングを受けるようになってからは、あまり疲れません。

信頼する上野先生ですが、遠隔ヒーリングについてはあまり信じていなかったのですが、こんなにも体が変わるなんて、正直びっくりです。

おわりに 今度はあなたが目を閉じる番

世界をめぐってきた祈りの形は、それぞれに異なります。

言葉にする祈り。火に託す祈り。

風に運ばれる祈り。遠く離れた人の名前を、静かに胸に置く祈り。

そこに共通していたのは、距離があるからといって、人と人とのつながりまで消えるわけではないという感覚でした。

遠隔ヒーリングについて、すべてを理解してから受ける必要はありません。

何かを信じ込もうとしなくても大丈夫です。

「本当に何かを感じられるだろうか」と心配する必要もありません。

温かさを感じる人もいます。

眠くなる人もいます。

涙が流れる人もいます。

何も感じない人もいます。

感じ方に、正解や優劣はありません。

ただ少しの間、頑張ることをやめて、自分のために用意された静かな時間を受け取ってみる。

その 60 分間に何を感じるのか。あるいは、何も感じないのか。

答えは、体験した人の数だけあります。

次に目を閉じるのはあなたの番です。



遠隔ヒーリング体験のご案内

セッションについて

遠隔ヒーリングは、ご自宅など、安心して過ごせる場所でお受けいただけます。

特別な姿勢や、難しい準備はありません。

何かを感じようと頑張らず、ご自身のための休息时间としてお過ごしください。

受ける前の準備

- ・ 椅子へゆったり座るか、ベッドや布団へ横になる。
- ・ 締めつけの少ない服装で過ごす。
- ・ 静かに過ごせる環境に身を置く。



セッション中に眠くなった場合は、そのまま寝てしまっても問題ありません。

感じ方には個人差がありますので、特別な感覚がなかったとしても、失敗ではありませんのでご安心ください。

遠隔ヒーリング体験日時：毎月 1 日～21 日 午後 22 時から 1 時間

料金（初月千円で体験できます）

A コース「チャクラ調整と心身の癒し白魔術」遠隔ヒーリング

初月 1,000 円（税込）、翌月より 5,800 円（税込）

B コース「願いを叶える光の白魔術」遠隔ヒーリング

初月 1,000 円（税込）、翌月より 9,800 円（税込）

お申し込み方法（欠員が出た月の 22 日辺りから募集開始します）

<https://tele.cosmobright.com/>

お問い合わせフォーム

<https://cosmobright.com/contact.html>

大切なお知らせ

遠隔ヒーリングは、リラクゼーションや自己理解を支えることを目的とした、補完的な取り組みです。

医療行為、診断、治療、心理療法ではなく、医療の代わりとなるものではありません。

心身に気になる症状がある場合は、自己判断で治療や服薬を中断せず、医師など適切な専門家へご相談ください。

また、「以前好きだったものに心が動かない」「眠れない」「強い不安や落ち込みが続く」などの状態が長く続いている場合は、一人で抱え込まず、医師や公認心理師などの専門家へご相談ください。

本書に掲載している体験談は、体験された方個人の感想です。

遠隔ヒーリングの感じ方や、その後の変化には個人差があります。

すべての方に同じ変化や結果が生じることを保証するものではありません。



■上野正春プロフィール■

1947 年京都府生まれ。滋賀県に長期在住後、2015 年より東京に在住。

コスモブライト ヒーリングスクールの主講師。医学博士。鍼灸師。

幼い時から、密教・神道の修験者である祖父から滝行や行者のお火焚き、釜鳴り神事等さまざまな教育や修行を受け、日常的に起こる超常現象や霊的体験などの不思議な体験をしながら成長しました。

幼少時に、修行をする祖父に連れられ、レイキ発祥の聖地である京都の鞍馬山で大ケガをした際、見知らぬ行者から自分で治せるようにと、レイキと酷似した波動伝授のアチューンメントを受けた経緯を持ちます。

成人後はインドネシアの政府公認チャネラーより瞑想の手ほどきを受けたり、中国人医師で気功師より気功を学んだり、神道の師匠について研磨を重ねたりなどして、それらを土台にして研磨を重ね、独自のヒーリング手法を確立しました。

1992 年 2 月千葉県清澄寺で高次元エネルギーとの接触があり、それ以来、人々の喜びの中に自分の人生を見つけだすようになります。

国家資格の「鍼灸師」であるため、経絡経穴などの中国医学はもちろん、解剖学や生理学などの西洋医学も学んでおり、体のことを熟知した上でスピリチュアルワールドを語りますので、受講生から信頼されています。

昔良くやっていた趣味は、魚釣り（海）、将棋ですが、最近は、海外旅行、温泉、キャンプが好きです。また、阪神ファンで、野球 TV 観戦も好きです。

[鍼灸師] [医学博士] [整体師師範] [コスモブライト中医学整体学院学院長]

[国際医学療術学会会長] [日本自然療法学会会長] [中国西洋結合医学会]

[霊気臼井式療法協会 (Reiki Usui Shiki Ryoho Association) 会長]

本 PDF レポートをダウンロードされた方には、コスモブライト発行の無料メルマガを配信させていただきますので、よろしくお願いいたします。
メルマガはいつでも簡単に解除できますのでご安心ください。



この「祈りとエネルギーが光に乗って届くとき 世界の祈りから読み解く、遠隔ヒーリングの謎」が、あなたのお役に立ちますよう、心よりお祈りいたします。

ヒーリングスクール コスモブライト 上野正春、上野タ子



ご質問は以下のお問合せフォームからお願いします。

<https://cosmobright.com/contact.html>

ヒーリングスクール コスモブライト <https://cosmobright.com/>

開運癒しショップ コスモブライト <https://iyashishop.com/>

スピリチュアルサイト 癒し・ヒーリングの園 <https://healingyu.com>

ブログ スピリチュアルヒーリング癒しの健康法 <https://ameblo.jp/cosmob>

本レポートの無断転写、転載を禁止致します。